

## 統合保育の方法論に関する研究

### —保育活動に即した介入(Activity-Based Intervention)の概要—

水内 豊和 ・ 七木田 敦

(広島大学大学院) (広島大学)

#### I. はじめに

近年、統合保育の量的拡充はめざましく、そのこと自体はもはやめずらしいことではなくなってきている。ところが、実際には、障害児を現前にしてその対応に困る保育者が見受けられることも少なくない。その裏にはさまざまな原因が推定されるが、ひとつには、これまでの施設などでの分離保育や個別的介入から得られてきた研究成果の蓄積により、障害の種類や程度に応じた「障害幼児の保育」方法こそ提供されてきたものの、「統合保育」の方法論が確立されていない(園山, 1996) ことに原因があることが予想される。

本研究では、アメリカ合衆国における統合保育の方法論と目される Bricker ら (1998) によって提唱された Activity-Based Intervention (ABI) に着目し、わが国の統合保育の方法論として適用できるかどうかを検討することを目的とする。本発表では、ABI を保育に用いる上での概要について紹介し、今後わが国の保育所・幼稚園において適用する上での示唆を得たい。

#### II. ABIに関する基本的事項

ABI とは、機能的で般化するスキルの獲得を目的に、ルーチン活動、設定保育活動、自由遊び活動の中に、個別的なゴールや目標を取り入れ、応用行動分析の手法を用いた介入アプローチである (Bricker ら, 1998)。これは幼児教育プログラム作成のためのガイドラインとして全米に認知された「発達にふさわしい実践 (DAP)」とも両立する (Novic, 1993 他) ことから、特別なニーズのある子どもにとって発達のおよび個別的に適切な保育の文脈を提供することが可能となる。

#### III. 保育場面におけるABIの導入

ABI においては、集団保育の中で介入を行うにあたり、IEP/IFSP のゴール達成が最優先される。IEP/IFSP に基づき、個々の子どもの目指すゴールから、まず目標のマトリックスを作成する。次に、保育場面で ABI を導入するに際しては、個別プログラム計画、集団活動のスケジュール、集団活動計画、の3つを作成する。

##### 1. 個別プログラム計画

個別プログラム計画では、子どもの情報を識別する、IEP/IFSP ゴール/目標を列挙する、指導を熟慮する、そして手続きを評価する、という4つの手続きを踏む。

##### 2. 集団活動のスケジュール

個別プログラム計画で子どものゴールと目標を決定した後、次に集団活動スケジュールを作成する。これは、自由遊び活動、ルーチン活動、設定保育活動とのバランスを考慮して作成される。作成にあたっては、個々子どもの IEP/IFSP のゴールと目標達成を第一とする、クラスでの日常的・典型的な活動の順序と事柄を想起する、それらの活動にゴールや目標を埋め込むことができるかどうか考える、という手順を踏む。この集団活動スケジュールは、年度始めに作成され、子どもがゴールや目標に到達した際や、スタッフや環境などの状況が変わる際に変更する。

##### 3. 集団活動計画

個々の子どもから集団へと視点を向けるとき、設定保育活動においては、その中で子どものゴールと目標を記述する方法が重要である。お集まり、誕生日会、散歩、料理や表現のプロジェクトといった設定保育活動は、保育者が計画、準備、導入にあたるものであり、集団活動計画が重要となる。集団活動計画は (1) 活動名、(2) 教材、(3) 環境のアレンジ、(4) 活動の詳細 (導入、活動、終了)、(5) 子どものゴール/目標を埋め込む機会、(6) 想定されるバリエーション、(7) 活動中の語彙、(8) 仲間との相互作用方略、(9) 親や養育者の関与、という9つの内容から構成される。図1に集団活動計画の具体例を示す。

#### IV. 活動と教材を選択する上でのガイドライン

##### 1. 活動選択のガイドライン

設定保育活動は、ABI の目的を達成する上で重要である。子どもにとって適切な活動を選択する上でのガイドラインを示す。(1) 活動は子どもにとって意義があること、(2) 活動は行為 (action) を伴うものであること、(3) 活動は自立を促進するものであること、(4) 自由遊び、ルーチンの各活動とのバランスがとれていること、(5) 活動はルーチン活動と並立するものであること、(6) 活動は個々の子どもの目的に応じて調整されること、(7) 活動には反復が含まれること、(8) 活動には模倣とロールプレイが含まれること。

##### 2. 教材選択のガイドライン

集団活動計画	
<p><b>活動名:</b> ガソリンスタンドごっこ</p> <p><b>材料:</b> おもちゃのガスポンプ、さまざまな二人乗りのおもちゃ、三輪車、ワゴン、タイヤのポンプ、空のスプレー缶、布切れ、空のオイルの容器、いくつかのプラスチックのかご、メモ帳、鉛筆、スマイルシール、乗り物おもちゃのためのマジックテープ</p> <p><b>環境アレンジ:</b> ガソリンスタンドを、三輪車や乗り物おもちゃの通り道のそばに作る。プラスチックの大かごとガスポンプのある場所を明確にする。一人の保育者が子どもの遊びをモニターし、また促進するために割り当てられる。</p>	<p style="text-align: center;"><b>活動の詳細</b></p> <p><b>導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは、保育者と一緒にガソリンスタンドを作る。</li> <li>子どもたちは、おもちゃ倉庫から乗り物のおもちゃを取り出す。</li> <li>子どもたちと保育者は、ガソリンスタンドを作るために、乗り物に乗るスペースの中心に他のすべての材料を運ぶ。</li> <li>場所を示すためにプラスチックの大かごを用意し、そこに、オイル缶、布切れ、スプレー缶を入れる。</li> </ul> <p><b>活動の順序</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは、乗り物を選び、ガソリンスタンドの周りをまわる。</li> <li>子どもたちは、どの役割をするか決める(たとえば、誰がガソリンスタンドの店員になるか、何をするのか)。</li> <li>乗り物にのる子どもたちは、ガソリンを入れる、タイヤに空気を入れる、窓をきれいにするためにガソリンスタンドに立ち寄る。</li> <li>店員役の子どもは、客に「ガソリンですか?、タイヤに空気を入れましょうか?、窓を拭きましょうか?」とたずねる。</li> <li>店員役の子どもは、要求されたサービスに応じる。</li> <li>客の子どもは、店員に請求された金額と同じ数だけ、店員の手のひらを打つ。</li> <li>店員は、客を見送り、次の客を待つ。</li> </ul> <p><b>終了</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者は、片付けのチャイムがなる5分前に、その旨を告げる。</li> <li>保育者は、各児もう1ターンづつガソリンスタンドごっこができることを言う。</li> <li>子どもたちは、片付けにかかり、乗り物を倉庫にしまい、そして他の子どもの片付けも手伝う。</li> <li>子どもたちは、片づけを終えると、倉庫前に整列し、クラスに戻る。</li> </ul> <p><b>ゴールを活動に埋め込む機会</b> ( )内は子どものイニシヤル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペダルのある乗り物を選択する(MK)</li> <li>三輪車に乗ってガソリンスタンドに行くことを促す(TO)</li> <li>二人乗りの乗り物を選択し、級友と一緒に乗ることを提案する(KA)</li> <li>「何に乗っているの?」と問う(MK)</li> <li>「ガソリンスタンドで何をしようか?」と問う(KA)</li> <li>客が来たときに、うれしい、忙しい、疲れたなどの表現を明確にする(GT)</li> <li>ガソリン代を相手の手に支払うことができれば、スマイルシールを与える(MK)</li> <li>自転車倉庫にしまう(MK)</li> <li>物を持って動かしたりするのに補助が必要な級友を手伝うようにGTに声掛けする(GT)</li> <li>列に並んでクラスに戻るという時に、乗り物に乗っているMWIに、今何をしている時か問う(MW)</li> </ul> <p><b>予想されるバリエーション</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>紙のお金、壁、財布、キャッシュレジスターといったものを追加する。</li> <li>乗り物が通る道に、道路標識を用意する。</li> </ol> <p><b>活動中の言葉</b></p> <p>「いらっしゃいませ、さようなら」 ・どうもありがとうございます ・1から20までの数    ・タイヤ ・窓 ・オイル、ガソリン ・拭く ・～円(金額) ・級友の名前</p> <p><b>仲間との相互作用方略</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2人以上の子どもたちでガソリンスタンドを一緒に経営する。</li> <li>子どもたちは、2人乗りの乗り物に乗るか、ワゴンを互いに乗る/引っ張る。</li> <li>子どもたちは、何人かで、故障した/ガス欠の車をガソリンスタンドに押す。</li> <li>子どもたちは、ガソリンスタンドで級友にいろいろなサービスを要求する。</li> </ol> <p><b>親や養育者の関与</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは、実際に親が勤務しているガソリンスタンドを訪れる。</li> <li>親は、洗車用の布、スプレー缶、空になったきれいなオイルの缶を寄付する。</li> <li>子どもたちは、家の車の写真をクラスに持ってくる。</li> </ol>

図1 集団活動計画の一例 Bricker, D., et al., (1998) An activity-based approach to early intervention. 112-114.より著者訳。

ABIにおいて教材の選択は重要である。おもちゃや教材は、どんなにそれが大人や子どもにとってかわいらしくても、子どもの成長と発達を促進するものでなければ価値がない。また優れた教材は、子どもの自発性や行為を刺激する。さらに、そうした教材を用いることは、保育者の直接的な介入の必要性を減少させ、そして子どもの自発性に反応する機会を提供することにつながる。教材を選択する上でのガイドラインを以下に示す。(1)教材は日々の活動に関連するものであること、(2)教材は多面的なものであること、(3)教材は発達にふさわしいものであること、(4)教材は訓練の機会と般化とを促進するものであること。

#### V. ABIアプローチで用いられる各指導法

ABIアプローチはドリル学習のような単純な繰り返しによる指導ではなく、可能な限り子どもの自発性を尊重し、日々のルーチンと計画された活動との両立を

目指している。したがって以下に示すような非指示的な指導方略の使用が推奨される。(1)意図的な忘却の使用(2)新奇なもの・ことを示す(3)見えても手の届かないところへ教材を配置する(4)予想に反することを示す(5)一度にではなくひとつひとつする(6)適切な助力を与える(7)妨害と遅延を加える。

#### VI. おわりに

このように、ABIに際しては、個々の発達やスキル獲得を目的とし、アセスメントに基づく特殊で具体的な介入計画が立てられるものの、実際に子どもに接する際の指導原理は、これまでの幼児教育にて言及され実践されてきたものと通じる。それは、ABIが日々の保育活動に即したという前提であるゆえであり、統合保育の方法論として注目に値するであろう。今後は、ABIアプローチに基づく介入を、実際にわが国の保育所・幼稚園で適用し、その過程を検証していく。